

**第6次まちづくり総合計画等策定に向けた  
団体アンケート調査及び団体懇談会  
【報告書】**

**令和6年6月**

## 目 次

<b>I 調査の概要等</b> .....	1
●調査の目的 .....	1
●実施概要 .....	1
参考. アンケート調査結果のグラフの見方 .....	1
<b>II アンケート調査結果のまとめ</b> .....	2
●団体アンケート調査結果からみる特性・課題等 .....	2
<b>III 懇談会の結果のまとめ</b> .....	4
●懇談会における主な意見 .....	4
<b>IV 団体アンケート調査結果の詳細</b> .....	7
●回答いただいた団体の概要 .....	7
●宇治田原町における活動について .....	7
●今後の宇治田原町のまちづくりについて .....	11

## I 調査の概要等

### ●調査の目的

○第6次まちづくり総合計画等の策定に向けて、本町のまちづくりに関する様々な活動を展開されている団体の皆様から、これからの宇治田原町を“もっといいまち”にしていくためのご意向を把握するとともに、計画に反映することを目的として、アンケート調査及び懇談会を実施しました。

### ●実施概要

#### 【アンケート調査】

対 象		実施時期・調査方法
本町で活動する 8つの団体	21 お茶のふるさと塾	令和6年3月実施 メールによる配布・回収
	宇治田原町農業委員会	
	要約筆記サークル「グリーンティ」	
	宇治田原町商工会	
	茶ッピー未来基金	
	社会福祉法人 宇治田原町社会福祉協議会	
	宇治田原町老人クラブ連合会	
	宇治田原町区長会	

#### 【懇談会】

対 象		日 時
21 お茶のふるさと塾	「子育て世代」「転入者」の方がメンバーとして在籍されている団体	令和6年6月4日開催 (19:30~21:25)

### 参考. アンケート調査結果のグラフの見方

- ◇設問のタイトル右に、回答形式、S A（単数回答）、M A（複数回答）、F A（記述回答）を示しています。
- ◇設問文や選択肢等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。
- ◇集計結果のグラフの“n”の値は、当該設問の回答対象者数を示しています。
- ◇集計結果のグラフにおける“無回答”は、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、単数回答の設問における複数回答等）の件数（票数）を示しています。
- ◇本調査は回答対象者の母数が限られるため、グラフは割合ではなく実数を表示しています。

## II アンケート調査結果のまとめ

### ●団体アンケート調査結果からみる特性・課題等

※「★」はアンケート調査結果を踏まえた特性・課題等の分析や考察、「○」はアンケート調査における具体的な結果や意見の内容であることを示しています。

<p>地域のつながりについて</p>	<p><b>★町域がコンパクトで地域の中のつながりがあることは、本町の大きな強みである一方で、つながりが強いことで若者が参加しづらい、参加者の固定化といった実態もみられます。地域のつながりがあるという本町の強みを維持するとともに、外国籍の方をはじめ移住者が増えている中で、風通しの良い地域のあり方についても検討を進める必要があります。</b></p> <p>○宇治田原町で活動しやすい点は、「地域とのつながり、連携」がとれているといった意見が特に多い。【問1】</p> <p>○活動しづらい点として、つながりが深いことで「しがらみが多く、若者が離れる要因」「参加者の固定化」につながっているといった意見がみられる。【問1】</p> <p>○担い手不足以外の課題として、「講座やイベント参加者の固定化」「外国籍の住民が増加し、生活面（ゴミ出し・騒音等）でのトラブルが増加している」といった意見がみられる。【問4】</p>
<p>団体活動の担い手について</p>	<p><b>★人口減少、高齢化が進む中で、団体活動の担い手不足は本町においても大きな課題になっていると考えられます。一方で、「移住者を受け入れる」ことによって担い手不足が解消した団体もあることから、それぞれの団体が個々の団体の特性を踏まえつつ、担い手の候補となる対象を広げていくといった検討も求められます。</b></p> <p>○活動の担い手不足は、ほとんどの団体で課題となっている一方で、「過去に課題があったが、解決した」といった回答もみられる。【問2】</p> <p>○担い手の確保に向けた独自の取組として、「直接的な声かけ」「情報発信手法」「活動内容の工夫」といった回答がみられる。なお、「過去に課題があったが、解決した」と回答した団体においては「移住者の受け入れ」によって、課題を解消している。【問3】</p> <p>○担い手不足以外の課題として、「仕事を持ちながら活動をしている会員が多く活動の時間が取りにくい」「加入年齢の高齢化」といった回答がみられる。【問4】</p> <p>○行政に望む取組・支援等として、「団体の体制への支援（組織としての若返り）」といった担い手関連の回答がみられる。【問5】</p>

<p>移住促進について</p>	<p><b>★活動の担い手不足の背景には、人口減少や高齢化の問題がある中で、行政の取組として「移住促進」を推進することが、団体の活動にとっても重要であるという実態がうかがえます。こうした移住促進の取組とともに、外国籍の方や、若者、子育て世帯をはじめとした移住者が、地域の活動やイベントに参加しやすい状況をつくることも重要となります。</b></p> <p>○担い手の確保に向けた独自の取組として、「過去に課題があったが、解決した」と回答した団体においては「移住者の受け入れ」によって、課題を解消している。【問3】※再掲</p> <p>○行政に望む取組・支援等として、「他の地域から住みやすい町として認識して頂き、移住を推進」といった回答がみられる。【問5】</p> <p>○持続可能な宇治田原町を実現するために行政がやるべきこととして、移住促進に関する意見が多くみられる。【問8】</p>
<p>まちづくりにおける団体の役割について</p>	<p><b>★本町の総合計画の基本計画においては、それぞれの施策の分野の中で、行政の施策だけでなく、「住民」や「地域」の役割を示しています。総合計画の推進は、こうした「住民」や「地域」の活動が不可欠であり、各団体が様々な分野のまちづくりへの協力の意欲を示していることは、計画を進める上でも非常に大きな力になると考えられます。</b></p> <p><b>★こうした団体の想いに応えるためにも、まちづくりの取組を進める際には、行政からこれまで以上に関連する団体との連携の働きかけや、必要な情報発信・共有等に努めることが求められます。</b></p> <p>○SDGsの達成に向けた団体としての取組として、17のゴールのうち「働きがいも経済成長も」「住み続けられるまちづくりを」のほか、団体の活動自体が全体的にSDGsの方向性に合致しているといった意見がみられる。【問6】</p> <p>○団体として特に協力したい分野として、「福祉」「観光・交流」「農林業」「教育・文化」をはじめとした様々なまちづくりの分野について、協力したいといった意見がみられる。【問7】</p>

### Ⅲ 懇談会の結果のまとめ

#### ●懇談会における主な意見と特性・課題等

※「★」は懇談会の主な意見を踏まえた特性・課題等の分析や考察、「○」は懇談会における具体的な意見の内容であることを示しています。

移住支援について	<p><b>★本町の空家バンクやお試し住宅といった移住支援の仕組みは、開始当初は近隣自治体と比べて先進的な取組として実施されており、一定の成果を上げていたことがうかがえます。一方で、近年は空家バンクの新規登録が進まない中で、こうした仕組みが有効に機能しているとは言い難い状況がうかがえます。</b></p> <p><b>★お試し住宅の利用から移住につなげるための住宅の確保に向けて、民間とも協力しながら、居住可能な空家の掘り起こしや空家の所有者の理解促進が求められます。</b></p> <p><b>【移住に際して利用して良かった支援】</b></p> <p>○6年ほど前に移住する際に空家バンクを活用した。当時、登録物件は5軒ほどだったが、年末・年始にも関わらず担当職員の方が丁寧に対応してくれたため、大変ありがたかった。また、当時は宇治市や和東町に類似の仕組みが無かったことも、宇治田原町を移住先に選ぶきっかけになった。</p> <p>○空家バンクを活用して移住することで、町のポスター等に掲載していただき、住民の方との交流のきっかけにもなった。また、空家を改築する際の補助金も活用させていただいた。</p> <p>○京都移住コンシェルジュの紹介で、宇治田原町のお試し住宅を活用したが、宇治田原のリアルな生活を体験できたため、すごくよかった。</p> <p><b>【移住促進における課題】</b></p> <p>○宇治田原町に住みたいという方は多いが、一番の問題は住宅の不足。町の空家バンクについては現在登録が1件のみで、お試し住宅の利用後に住める家がないのが現実。</p> <p>○町内の空家は260軒ほどあると聞いているが、所有者が貸したがりない傾向がある。所有者は顔の見えない相手に貸すのが不安、あるいは貸すことを恥とを感じるケースもある。一方で、空家バンクなど公的な仕組みを利用しなくても、人のつながりといった顔が見える関係性があれば、気軽に貸してくれるケースもある。</p> <p>○空家の所有者は「売りたい」一方で、移住者は「借りたい」といったミスマッチが生じている。</p>
----------	--

子ども・子育て支援について

**★本町の既存の子ども・子育て支援（子育て支援医療や、保育所～小中学校給食の実施など）については、支援を受ける子育て世帯にとってすでに当たり前の制度になっており、制度・施策の良さを実感しづらいといった意見が見受けられます。**

**★既存の支援については、子育て世帯の実情や社会状況の変化なども踏まえた見直しを、といった意見が見受けられます。**

**★飲食や宿題のできる居場所については、保護者だけでなく中高生までを含めた子どもにとってもニーズが高いといった意見があり、子ども達の居場所づくりを検討する視点も必要です。**

**【既存の子ども・子育て支援について】**

- 町の子ども・子育て支援については、例えば保育の無償化などは、支援を受けている事が当たり前になっており、良さを実感しづらくなっているのかもしれない。
- 育児用品購入の助成制度は、当初は町内の店舗の買い物のみが助成の対象であったが、その後、町外の買い物も対象とする見直しもあった。ただ、助成の申請手続きなど、育児をしながらの書類作成は大変だった。
- 新生児訪問時に出産祝い品として、スプーンなどを貰えたが、自分で使うものを選びたいと思う方もいると思う。

**【必要な子ども・子育て支援】**

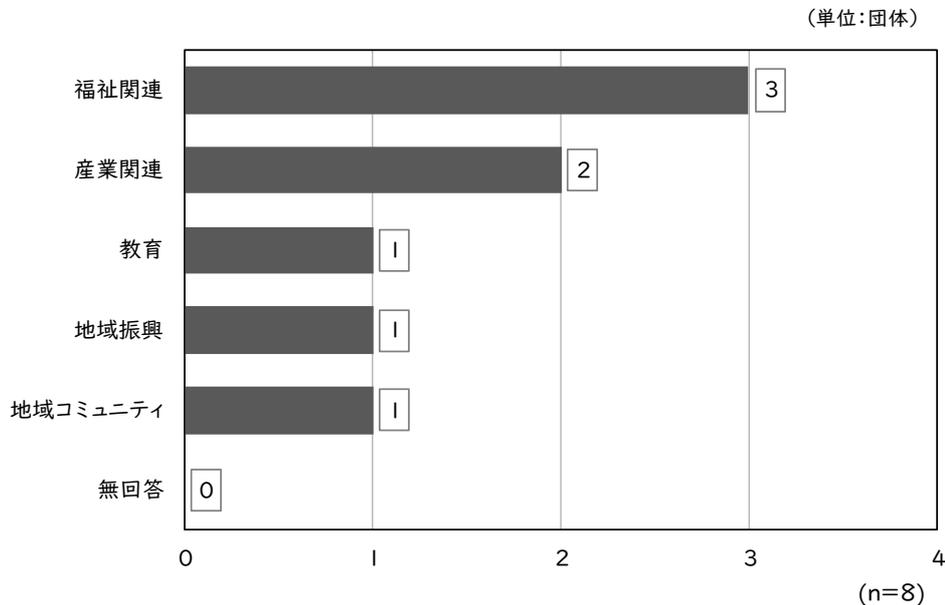
- 新生児訪問時に、一時保育の無料券が貰えるが、利用対象が授乳を必要とする1歳未満なので利用しづらいと思う方もいるのでは。1歳以上の幼児まで対象を広げていただいても良いのでは。
- 育児中、時には食事をつくりたくないこともある。子育て中の方が「子どもを連れて飲食できる場所（カフェやイートインスペース等）」があると良いと思う。
- 以前中学校で実施された子ども議会においても、町内に飲食店がほしいという意見が出ていた。集まって話や宿題をすることのできる場所は、中高生も求めていると感じる。
- 京田辺市にある南部まちづくりセンター「ミライロ」は行政主導の施設でありながら、日替わりのカフェ運営など、先進的な取組がされており、参考になるのではないかと。
- 役場や子育て支援センターなどの既存の施設を活用し、子どもや保護者の居場所をつくることもできるのではないかと。

<p>町の教育活動について</p>	<p><b>★本町の教育に関する様々な取組は、子どもたちの地域に対する理解や郷土愛の醸成、またまちづくりの意欲を高めるとともに、実際の活動に移すことのできる仕組みとして有効に機能していることがうかがえます。</b></p> <p>○宇治田原町は小学校から中学校まで一貫した「ふるさと教育」を、地域住民を講師に招いて実施しており、この数年間の積み上げが、子どもたちに地域の良いところ・良くないところを知り、まちづくりに対する意識を高めることに加え、子どもたちの自信にもつながっているのではないかと。</p> <p>○ふるさと教育の集大成として、中学2年生はふるさと納税の返礼品の商品づくり、中学3年生は「宇治田原町を元気にする会社をつくる」ワークショップを経験している。</p> <p>○茶ッピー未来基金の活動によって、世代を超えてまちづくりの意欲のある若者がつながれるようになった。初期メンバーが社会人になり、これからの活躍が期待できる。</p> <p>○民間の活動だが、「森のようちえん」や奥山田で検討されている「フリースクール」は町の新たな教育の場の1つになっていくのではないかと。</p>
<p>住民や地域との連携や支援のあり方について</p>	<p><b>★住民や地域の熱意ある効果的な活動を後押しする行政の支援として、より柔軟性の高い支援の仕組みや、広く情報を発信するための連携、また子どもたちを含め様々な声や意見を拾い上げることのできる仕組みづくりが求められています。</b></p> <p>○宇治田原町内には、様々な活動を行いたいという熱意を持つ方がたくさんいる一方で、あらかじめ定められた枠組みや条件に当てはまらなければ、行政からの支援を受けることができない。移住定住の促進や子育て支援など、町の課題解決につながる民間の活動に対して、行政の支援をより柔軟に受けられるようになると良いのではないかと。</p> <p>○宇治田原町には、地域の団体など、民間の素晴らしい活動がたくさんあるが、こうした情報を広く発信するツールがない。本来は広報の役割だと思うが、住民によるブログやSNSなど、個々の情報発信とも連携できると良いのではないかと。</p> <p>○子どもたちの意見を聞ける、参加できる場もつくる必要があるのではないかと。現在実施している「こどもマルシェ」についても、子どもの「やってみたい」という声から出発している。</p> <p>○一般的な行政の会議の場などは、自由に意見を出し合える雰囲気があまりないと感じる。話しやすい雰囲気をつくることができれば、より良いアイデアが出るようになるのではないかと。</p> <p>○町外に居住する職員が地域に入り込めていない実態があるのではないかと。町内に居住する職員は、距離が近いこともあり、住民と関係性を築きやすい。一方で、住民によっては町外の職員だから（町民でないから）相談しやすいといった内容もある。</p>

## IV 団体アンケート調査結果の詳細

### ●回答いただいた団体の概要

#### 【団体の活動分野】



### ●宇治田原町における活動について

#### 問Ⅰ 宇治田原町で活動しやすい点・活動しづらい点 (FA)

#### 【活動しやすい点】

##### <地域のつながり、連携>

- 宇治田原町の面積、人口規模が小さめであることから、「人のつながり」が目に見えてわかりやすいところ。
- 小さな町であるため、農業委員と農業者の距離が近いこともあり、農業者から農業委員への相談等もしやすい。
- (団体が)地域に認知されていて理解がある。
- 活動、協力事業において、社協の協力の元、役場と連携してサークルに連絡を密に取り活動出来る事。
- 本会の福祉活動は主として町内としているため、地域に根差した活動ができる
- 地域に根付いた活動ができる事。

##### <地勢・歴史>

- 古くから交通の要衝であり、新名神高速道路が整備されれば一層交通の要衝としての役割が強くなる事。
- 日本緑茶発祥の地であり、永谷宗圓翁以前から茶処である事。

##### <行政の取組>

- 宇治田原町が子どもたちの支援活動に注力されている事。(例:ミラチャレ)

## 【活動しづらい点】

### <なし>

- ほとんどありません。
- 特にありません。
- 特になし。

### <つながり>

- 良いも悪いもしがらみが多い点。若者が離れていく要因となっている。
- 「人のつながり」が目に見えてわかりやすいことから、イベントへの参加者が固定化している事。  
(ただイベント参加者の固定化には他にも色々な原因があると考えています。)

### <交通・道路>

- 鉄道がない事。
- 宇治市、城陽市もしくは京田辺市から離れており、道路整備に期待が大きい点。

### <行政の対応>

- 役場の担当課により対応が違う事。

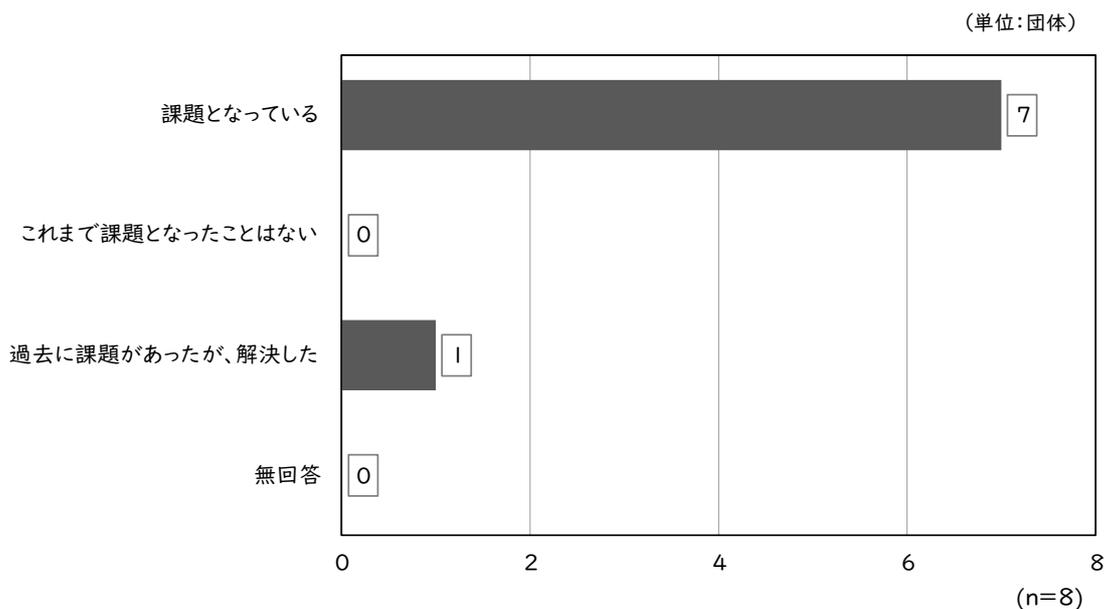
### <担い手不足・高齢化>

- 農業者の高齢化や担い手不足により農地管理が行き届かなくなる傾向が高まり、適正な農地利用の維持が困難になってきている。

### <産業>

- 地場産業においても地元での恩恵を感じない点。

## 問2 活動の担い手不足の現状 (SA)



## 問3 担い手の確保に向けた独自の取組 (FA)

### <活動内容の工夫>

- 運営の(業務委託等)簡略化。
- 飛び入り参加可能なイベントを実施することで、イベント参加のハードルを下げるるとともに活動に興味を持つ子どもを増やす。
- 健康マージャンをはじめ、輪投げ大会、スカットボール等ニュースポーツを取り入れた新しい取組を積極的に行い、新規加入会員の確保に努めている。

### <声かけ>

- サークル員が知り合いの方や友達に声かけをしている。
- 所属スタッフの友人招待を推進している。

### <情報発信手法>

- SNSを通じ取組内容を発信している。
- 数年前から紙媒体だけでなくWEB(HP、FB、YouTube)で活動を公開している。

### <対象の明確化>

- 移住者の受け入れ。
- 令和5年の改選時に初の女性委員を2名確保でき、今後は女性委員の登用推進も積極的に進めていきたい。

### <他の団体等との連携>

- 茶業青年会が取組んでいるお茶の研鑽に協力。青年部活動を通じての若手経営者及び後継者の育成。

#### 問4 担い手不足以外の課題（FA）

##### <会員等の状況>

- 仕事をもちながら活動をしている会員が多いので定例会や練習する時間が取りにくい。
- 加入年齢の高齢化（定年延長や年金支給年齢の引き上げ等の影響による）。
- 講座やイベント参加者の固定化。
- 人口減少・高齢化により、地域活動（清掃活動等）に支障が出てきているとともに、加入率の低下により、持続的な運営が困難になってきている。

##### <運営>

- 年々補助金が減少している反面事業費は増大している。非営利団体においては、補助金の減額は大変厳しい状況に陥る事になり兼ねない上、様々な影響を及ぼす事になる。
- 活動・業務が法令の見直しなどで多様化してきており、委員会に求められる業務が激増しているが、なかなか求められる業務に対応ができかねている状況。
- 組織運営が「子ども主体」になりきれないところ。

##### <コロナの影響>

- コロナ禍においてはどの業種においても何らかの影響を受けている。大きなダメージを受けた事業所においては今後の事業展開においては廃業へとつながり兼ねない。工業団地内の事業所、地場産業である茶業においても格差が大きくなっている。
- 新型コロナウイルス特例貸付制度（R4年9月終了）以降、生活困窮相談が増加していること。

##### <情報発信>

- 活動内容の発信不足による、住民の団体に対するイメージの固定化。
- 時間的余裕を持ったイベント参加者の募集。

##### <なし>

- 特にありません。

#### 問5 行政に望む取組・支援等（FA）

##### <連携強化>

- 各種事業について協働、連携していくことがこれまで以上に必要。
- 宇治田原町の職員との交流を深め、様々な情報をいただきたい。

##### <財政支援>

- 財政面での支援。

##### <移住促進>

- 他の地域から住みやすい町として認識していただき、移住を推進して欲しい。

##### <活動場所の確保>

- 公的施設をイベント等でお借りする際の支援。

##### <情報発信>

- 団体の活動内容の紹介など。

問6 SDGsの達成に向けた団体としての取組（FA）

**<全体的な取組>**

- 活動自体がSDGsに合致しており、塾員個人でも単独で取り組んでいる。
- サークル員と相談して出来る事があれば取り組んでいきたいと思う。

**<No.8 働きがいも経済成長も>**

- 農業生産性及び農業所得向上を推進するために、認定農業者等への農地の集約化の取組を更に推進していきたい。
- 各事業所の持続可能な経営に向け事業計画書の策定のための個別相談会を開催し、策定した事業計画を基に、補助金を活用した設備を増設。

**<No.11 住み続けられるまちづくりを>**

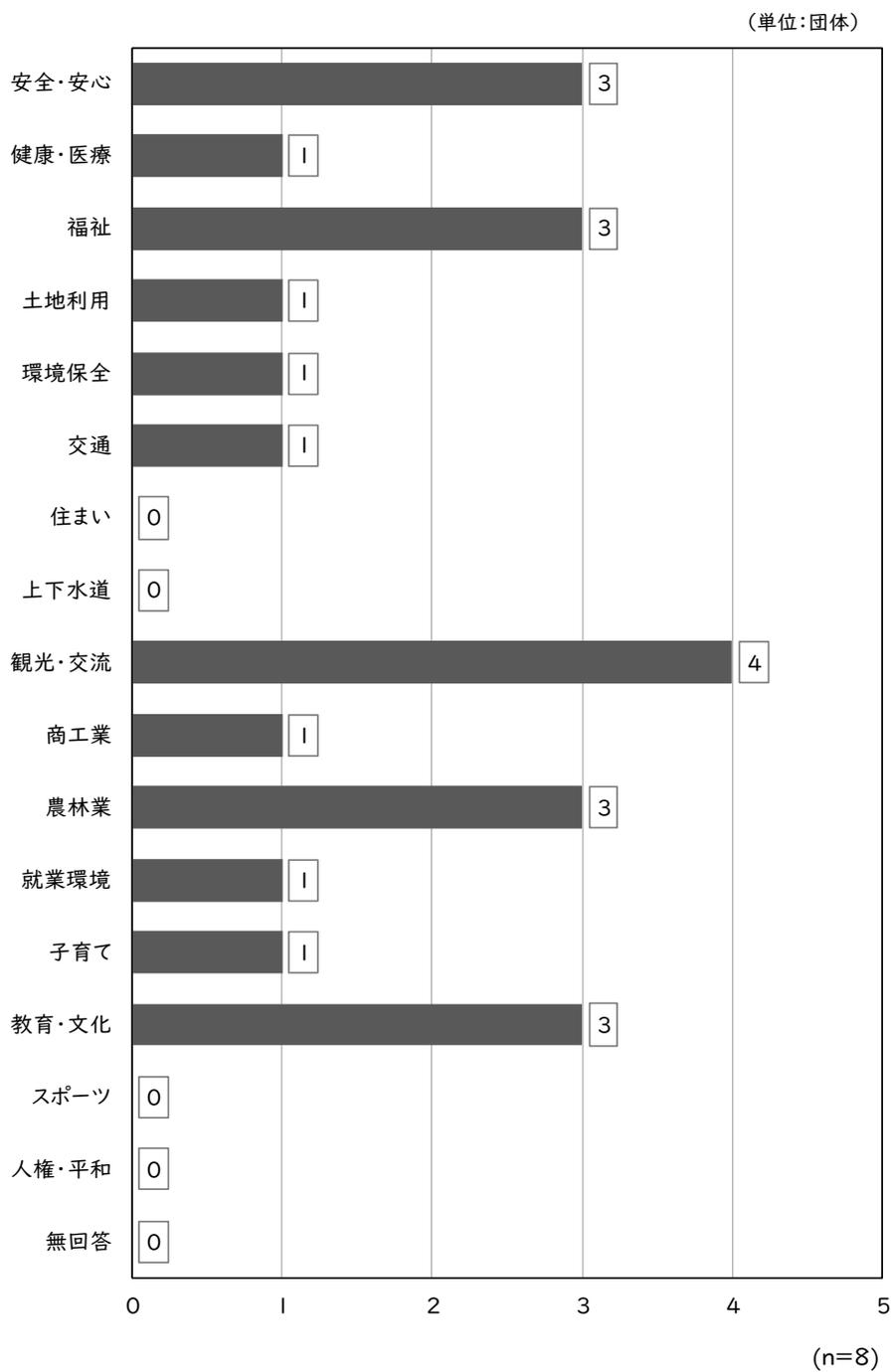
- 現在、SDGsを意識した活動は行えていませんが、団体の活動を通じて、「住み続けられるまちづくりを」実現にご協力できるのではないかと考えている。
- ボランティア活動の三大原則「いつでも、どこでも、誰でも」を基本とし「誰もが参加できる持続可能な社会」を目指す。
- 伝統行事（田原祭りや練りこみ囃子等）の継承。

**<No.12 つくる責任つかう責任>**

- 清掃美化活動を各地区で実施

問7 団体として特に協力したい分野 (MA+FA)

【分野の選択状況】



## 【取り組みたい具体的な内容（分野別）】

### <安全・安心>

- 各地域での安全パトロール等の見守り活動。
- 災害ボランティアセンターとしての機能、活動。
- 町と連携した災害に強いまちづくりの推進。

### <健康・医療>

- 各单位クラブの総会や研修会において健康増進勉強会やセミナーを開催。

### <福祉>

- 地域福祉の中核機関として様々な住民活動を展開。
- 各单位クラブでの地域奉仕活動、花づくりや清掃活動等のボランティア活動。
- 聞こえに不自由を感じておられる方が町行事等に参加してもらえる様に活動。

### <土地利用>

- 農地の適正な土地利用を図るため、農地法等の法令を遵守した手続きの推進。

### <環境保全>

- 登録環境ボランティアと協力・協働し、町内の美化推進に努める。

### <交通>

- 宇治田原町まちづくり推進課のご指導のもと、早期に山手線の完成を目指して、住民会議活動。

### <住まい>

※なし

### <上下水道>

※なし

### <観光・交流>

- 高校生など、若年層による宇治田原町のプロモーション。
- 宇治田原町全体で連携した活動。
- 茶摘み体験交流会。菊イモ掘りワークショップ。
- 地域資源を生かした観光・交流の促進。

### <商工業>

- 各種団体の協力のもと地域商工業発展。

### <農林業>

- 農地の適正な利用推進を図るため、担い手等への農地の利用集積の推進。
- 山の手入れ。森林材料の利用。
- 宇治田原町全体で連携した活動。【再掲】

### <就業環境>

- 宇治田原町全体で連携した活動。【再掲】

### <子育て>

- 子どもが自身の興味のあることに挑戦できるプラットフォームづくり。

### <教育・文化>

- 次世代を担う人材を育てる。中学校でのワークショップ。小学校での茶香服。
- 小学校や中学校において要約筆記の講座を開催し、要約筆記の事を知ってもらえたら。
- 子ども達の新たなコミュニティの創出→学校教育では時間的余裕がなく実施が難しい内容に関する講座の開催。

### <スポーツ>

※なし

### <人権・平和>

※なし

**問8 持続可能な宇治田原町を実現するために行政がやるべきこと (FA)**

**<移住促進>**

- 移住者の受け入れ。(宇治田原には物的・人的資源がいっぱいあるので、それを利用した様々な取組の可能性がたくさんある)
- 宇治田原町の保育所には待機児童がないと聞いており、これは若い人が宇治田原町へ移住する大きなきっかけとなり得る。

**<交流促進>**

- 現在も保育所と老人クラブの交流事業を年に4回ほど実施しているが、こういった世代間交流事業の推進。

**<交通の充実>**

- 公共交通機関の充実。

**<公共施設の管理>**

- 人口減少を見据え、公共施設の統廃合等を促進していく必要がある。